



# どっこいしょ

Dokkoisyo

2016.11.29 (火) 第17号



## 全国学力学習状況調査結果より



4月19日(火)に実施した全国学力学習状況調査について、本校の分析をお知らせします。3年生のみなさんには2学期初めに個人票を返却していますが、4月の実力と今の実力とどのくらいの伸びがあったのか振り返ってみることが大切です。1, 2年生のみなさんにとっては、これからの学習や生活面での参考となります。

後日、明石市教育委員会から市としての分析結果が公表されますので、合わせて今後の家庭での指導資料としてご覧ください。

	国語A	国語B	数学A	数学B
兵庫県	76.0	65.8	65.7	45.5
全国	75.6	66.5	62.2	44.1

平均正答率(%)

A: 主として知識に関する問題

B: 主として活用に関する問題

### 国語

A問題の漢字の読み取りで非常に高い正答率で全国平均を上回りましたが、「独創的」と書き取る問題では下回り(22.2%)でした。誤答としては「創」→「想」が多い。日常生活に馴染みのある言語についてはよく理解できていますが、そうでないものについては、既習の漢字から正答を導くことができにくいようです。

また、記述式、選択式ともに問題文の内容が身近に感じられるもの(A-3、ライスカレー)の場合、正答率が高くなっていました。授業でも触れていますが、まずは語彙力を増やすこと。問題文や質問等で使われている言葉が理解できないと、答えを導き出すことは難しくなります。「書く」問題についても、語彙力の不足から推敲が全く進まないことも多くみられます。日頃から書く活動が必要です。

**生徒質問紙の調査結果では、「新聞を全く読んでいない」生徒が194人中125人という結果でした。**“見たことがある”“聞いたことがある”程度であっても、豊かな日本語を知ることがまず問題を解く上での第一歩となります。(国語科 廣石先生)

### 数学

基本的な計算問題、関数の基本的な問題、確率に関するものなどは全国・県の正答率を大きく上回っていました。1年生の時から授業の初めに計算プリントを継続していた成果と考えます。

一方、「いくつかの数の中から“自然数”を全て選ぶ」という問題や数量の関係を文字式に表せるかという問題、対称移動した図形を書く、証明の意味、グラフの特徴、変域、最頻値、不等式など設問に使われた“言葉”(例: 3を代入、ねじれの位置、対角線は垂直に交わる)の意味を理解していないために誤答が多く、正答率が低くなっていました。この要因としては機械的に解答できる計算に比べ、知識理解の問題に関しては理解が不十分と言えます。**言葉の意味を含めた基礎・基本の理解を深めましょう。**(数学科 長井先生)

### まとめ

国語科、数学科に共通している課題は“語彙力”と言えます。日頃からたくさんの言葉に触れていますが、わからない言葉はその都度、調べることが大切です。新たな“発見”にもつながります。生徒質問紙の結果については後日掲載します。

# 発

ハツ、ホツ、はなつ、たつ  
弓(ゆみ)と、音を表す發  
(矢をはなつ音)とからなり、  
弓を射る意味を表す。ひいて、  
出る・はじめる・あばくなど  
の意味に用いる。

### 大野俊三 講演会

12/6(火)

13:30~14:40

(本校体育館)

●交通事故や病気を乗り越えトランパターとして活躍される大野俊三氏の講演会です。

※参加予定の方は、上履き、靴袋、PTA章をご持参ください。

### 明石市文芸祭で入賞 おめでとう

先日発表された第43回 明石市文芸祭において短歌(二ア)部門で1年生 我谷和奏さんの作品が文芸祭賞を受賞しました。

夕顔ははずかしがり屋の人見知り  
人の少ない時間に咲くから